

子どもの予防接種

予防接種は、感染症などの病気に対し免疫を作って予防するためのものです。予防接種の効果と副反応を十分理解し、体調の良いときに受けましょう。また、以下の内容が今後変更となった場合は、広報小田原、市ホームページ等でお知らせします。

- **予診票は取扱医療機関にあります。**
- 出生後の訪問時にお渡しする冊子「予防接種と子どもの健康」を必ず読んで、体調が良いときに受けましょう。
- 予防接種は、以下の対象年齢内であれば、10～11ページ記載の取扱医療機関で、市の費用負担（無料）で接種できます。取扱医療機関にあらかじめお問い合わせのうえ、**母子健康手帳を忘れずにお持ちください。**
- 里帰り出産などにより取扱医療機関での予防接種が難しい場合は、出産後速やかにご相談ください。

～予防接種の計画を立てましょう～ 期間中はいつでも接種できますが、それぞれの予防接種の目的から標準的な接種の年齢を目安として■で示してあります。

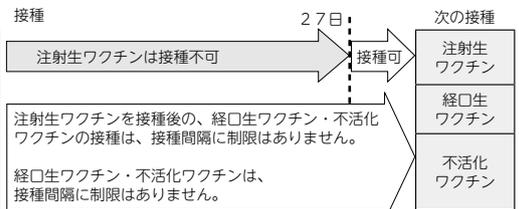
ワクチン名	年齢	標準的な接種年齢		法律で定められている対象年齢		接種回数等
		■	□	■	□	
B型肝炎	生後から	1歳未満				3回接種 (1回目から27日以上あけて2回目、更に1回目から139日以上あけて3回目を接種)
ロタウイルス感染症	生後6週0日後	24週0日後				2回接種
BCG(結核予防)	生後から	1歳未満				1回接種
Hib(ヒブ)	生後2か月から	5歳未満				標準的接種(生後2か月～7か月未満に接種開始)の場合次のとおり4回接種 (初回接種(①②③):27日～56日の間隔で生後12か月未満の間に3回接種 追加接種(④):初回の3回目終了後、7～13か月までの間隔をあけて1回接種)
小児の肺炎球菌	生後2か月から	5歳未満				標準的接種(生後2か月～7か月未満に接種開始)の場合次のとおり4回接種 (初回接種(①②③):生後12か月までに27日以上の間隔を置いて3回接種 追加接種(④):初回の3回目終了後60日以上あけて生後12～15か月未満で1回接種)
四種または五種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ + Hib)	生後2か月から	7歳6か月未満				4回接種 (初回接種(①②③):20日～56日間隔で3回接種 追加接種(④):初回の3回目終了後12～18か月までの間隔をあけて1回接種 五種混合の接種間隔については市ホームページをご覧ください)
麻しん・風しん(はしか)	1歳から2歳未満	平成30年4月2日～平成31年4月1日生				各期1回接種 (第1期:1歳になったら早めに1回接種 第2期:小学校就学前の1年間(4月1日から3月31日まで)に1回接種)
水痘(みずぼうそう)	1歳から	3歳未満				2回接種 【標準的な間隔】 (生後12か月～15か月未満で1回接種し、6～12か月までの間隔をあけて1回接種)
日本脳炎	平成23年4月2日以降の生まれのかた	生後6か月から	7歳6か月未満	9歳以上	13歳未満	4回接種 【標準的な間隔】 (1期初回(①②):6日～28日間隔で2回接種 1期追加(③):1期初回の2回目接種後、おおむね1年おいて1回接種 2期(④):9歳以上13歳未満で1回接種)
二種混合(ジフテリア・破傷風)	平成16年4月2日～平成19年4月1日生まれのかた	平成16年4月2日～平成19年4月1日生まれのかたは20歳未満までの間、4回接種のうち、不足回数分を無料で接種できます。				
HPV	平成20年4月2日～平成25年4月1日生まれの女子	小学6年生から	高校1年生相当まで			子宮頸がん等の予防のワクチンで、2価・4価9価の種類があり、ワクチンによって接種回数や間隔等が異なります。詳しくは市ホームページをご覧ください。
HPV	平成9年4月2日～平成20年4月1日生まれの女子	令和4年4月～令和7年3月までの間、3回接種のうち不足回数分を無料で接種できます。				

注：対象年齢の解釈 「～未満」は、「～の誕生日の前日まで」 例：「5歳未満」は「5歳の誕生日の前日まで」

ほかの予防接種との間隔のあけ方

- 十分な効果を得るために、注射生ワクチンを受けるときは、27日以上間隔をあけてください。
- 同じ種類のワクチンの接種を複数回受ける際は、ワクチンごとに決められた間隔を守ってください。

注射生ワクチン	BCG、水痘(みずぼうそう)、麻しん、風しん、おたふくかぜ、麻しん風しん混合(MR)
経口生ワクチン	ロタウイルス
不活化ワクチン	B型肝炎、Hib、肺炎球菌、四種混合、五種混合、不活化ポリオ、日本脳炎、二種混合、HPV、インフルエンザ、三種混合



※新型コロナウイルス感染症ワクチンは、この限りではありません。